F−4　週休二日制が家庭生活に及ぼす影響（その1）—序論—

岐阜大教育，堀田剛吉　金城学院大家政，今井光映　金城学院短大，生川浩子
静岡大教育，村尾勇之　椙山女大家政，山口久子

目的：最近勤労者の週休2日制は、急激にすゝんでいるが、これが家庭生活に与える影響の分析はほとんどやれていない。本研究では、勤労者の週休がその家族の生活に及ぼす影響をみる前段として、週休タイプ別に勤労者の生活時間と生活意識を考察した。

方法：愛知県勤労者の実態調査（昭和47年10月）の中より，完全週休2日制，隔週2日制，1日プラス土曜半日制，週休1日制の4タイプを対象にそれぞれ男子勤労者40人，女性10人の計200人を抽出し、分析をおこなった。

結果：週休2日制の進展が勤労者の生活内容を変化させる実態と、その結果から生ずる余暇時間の有効な活用に対する改善方策について考えてみた。まず週休2日制の進展は、余暇活用内容の質的向上、すなわち積極的な運動や教養時間の増大を結果している。また生活問題への関心の増大として、一般消費とくに食生活・住生活への要求増大という形をとる。隔週2日制は、完全週休2日制と週休1日制の中間段階の不安な形態であり、生活の不規則性に問題がある。しかし、この形態を中心として週休各形態とも週休2日制を指向している。なおやゝ特殊な動きをする1日プラス土曜半日形態では、完全2日制と同じように余暇時間を比較的教養的なものに利用する傾向が強いが、同時に平日と休日の自由・休息時間において格差が最も大きい。これらのことから労働条件の向上は、人間性の回復に役立つし、時間の活用もそれなりに充実されるが、更にこれらを有効に活用するため、各種社会施設整備と社会教育の充実が望まれる。